

【パキスタン北部地震活動に従事して】

総務課 阪本 昌代

「パキスタンで大きな地震が発生し、日赤からも要員が派遣された」と第一報を聞いてから早4ヶ月。私自身がパキスタンで救援活動に従事していた頃がとても遠い昔のように感じられます。

10月8日、マグニチュード7.6の地震が発生してから約1ヶ月後の11月4日、日赤本社の方々に見送られながら、私たち要員13人はパキスタンに向けて出発しました。パキスタン北部とインドを襲った地震の被害は、7万3千人の死者、12万人以上の負傷者を出し、300万人以上が家屋を失うという大惨事となり、その被害範囲はイタリアの国土に相当すると言われています。

パキスタンは、有名なK2(エベレストに続いて世界で2番目に高い山)に代表されるように山岳部が多く、高地に家畜と暮らす人の多くが、この地震に遭遇しました。パキスタンとインドがその実効支配線(停戦ライン)を巡って領有権を争っているカシミール地方や、北西辺境州の地域では、道路が寸断された所も多く、地震直後は救援物資もヘリでしか輸送手段がないという大変な状況で、その後爆破をして、ようやく通過が可能となった道路をつかってトラックでの救援物資の搬送や救援・医療チームの派遣が、本格化していきました。

そのような状況下で、日赤は、紛争地域のカシミール地方で活動している赤十字国際委員会(ICRC)と、北西辺境州で活動している国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)の両方に地震直後から積極的に要員を派遣し、ICRCの方でも、連盟の方でも日赤は大いに貢献をしていると高い評価を頂く一方で、さらに今回は、当院から呼吸器外科中出部長、検査部喜田技師、そして私の3名がほぼ同時期にパキスタン国内で、救援活動に従事するという、当院にとっても初めての経験となり、本社や大阪府支部の方々からも当院の積極的な取組みは、評価頂いていると聞いています。

以下に、私の連絡調整員としての業務を少し紹介したいと思います。私は、連絡調整員(リエゾン)としてパキスタンの首都であるイスラマバードで活動をしていました。

リエゾンとは一言でいうと、パキスタン各地の前線で働く日赤要員を後方から支援する後方支援要員ということになるのでしょうか。我々日赤の救援活動は、前述のICRCと連盟の傘下で行われるため、双方との連絡調整、また被災国であるパキスタン赤新月社や各支援国との coordination が必要となってきます。彼らとの日常からの密なコミュニケーションや会議での意見交換、彼らから何かリクエストがある場合は、リクエストに応えられるよう早急に対処するなど、各団体と日赤との関係構築、総合的な連絡調整は、日赤の存在を示すためにも重要な業務であり、その具体的内容としては、定例の会議への参加のみならず、時にはパキスタン赤新月社社長との meeting や連盟が主催する各支援国会議、日本大使館での夕食会を兼ねた意見交換会、要員の派遣期間延長の要請を受けての調整などがあります。



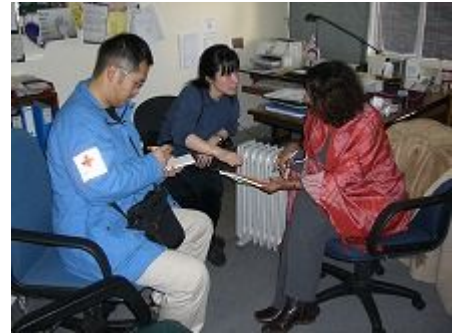
各国赤十字社・赤新月社代表が
参加する会議

その他の業務としては、日本から被災地に向かう要員の受入れ(空港への迎え、登録作業、ブリーフィング日程の調整)および被災地への移動手段の確保(ヘリの予約・車の予約)、被災地から日本へ帰国する要員の受入れ(迎えの手配、デブリーフィング日程の調整、帰国時の空港への見送り)および移動手段の確保(帰国便の手配、車の予約)、各地から送られてくる日報(週報)の整理、要員たちが出入国時に使用する、また自分たちの活動拠点となるホテルの部屋の確保やその値段交渉・支払、各地から要望を受けた物品の購入や送付、自分たちが活動に使用する車と運転手の契約・更新、本社や各拠点病院から預かった前渡金の管理、各方面からの取材調整など、種類の業務があります。

今回が、初の mission となる私にとって、本来は一人で行うべきこれらの業務を本院の喜田さんと分担し、日々相談しながら進められたことは、本当に有難いことでした。派遣中は、英語面、知識面でも自分の未熟さを痛感し、喜田さんをはじめ ICRC、連盟、各支援国、パキスタン赤新月社や現地の人に助けて頂きながら日々奮闘する毎日でしたが、無事に業務を遂行でき、次の方へ引き継げたことは自分の中でも大きな自信となりました。

また、派遣中に日赤の ERU チームが活動するカシミール地方のチナリを訪問し、要員の皆さんの一生懸命な活動を見聞し、一緒に体験できたことは、私にとって大きな財産となりました。地震で被災された人の多くは、厳しい寒さの中、テントで生活されていますが、倒壊した建物の横で、市場を再開している人々の逞しさも実感しました。

最近の現地からのニュースでは、厳寒期の中で、急性上気道炎、中には肺炎の患者さんが多いと聞いています。今は、災害後の二次的な災害でこれ以上死者・負傷者の方が増えないことを祈るばかりです。



連盟のイスラマバード事務所にて

人事担当者との話し合い